

## 13・4 先天性代謝異常症患者由来リンパ球の株化と長期培養

熊本大学医学部

松田 一郎

### 目 的

ヒトリンパ球にEBウイルスを試験管内で感染させると、リンパ球特にB cellの一部がtransformし、次々と増殖を重ね、その培養株を樹立することが出来る。

この株は長期間の継代培養が可能であり、また、dimethyl sulfoxideを入れて $-70^{\circ}\text{C}$ に生存したまま保存することも可能である。また必要に応じて軟寒天中でクローン化することも出来るので(和田班での報告参考)、これを使用し一個のリンパ球の持つ遺伝情報を確実に捉えることも出来る。また培養液の組成などを変化させることで、疾患の病態生理の一面を知ることも可能である。

将来、この種の細胞のバンクを作り、代謝異常の研究、発生予防の研究に役立てたい。

### 方 法

患者末梢ヘパリン血を採取し、Ficoll-conrayを使い、リンパ球を分離する。細胞をRPMI, 1640 20%FCSに $10^6/\text{ml}$ になるように浮遊させる。これにEBウイルス(B. 578 7-7)を加えて感染させる。培地の $1/2$ を3~4日毎に交換し株の樹立を行った。

### 結 果 及 び 考 案

この方法により、これまでシトルリン血症2株、メチールマロニール血症1株、及びその母親1株、フコシドーシス1株、ファブリー病1株及びその母親1株、オルニチンカルバミールトランスフェラーゼ低下症1株を樹立した。

今後、保存株を増やすこと、また保存法もさらに検討する必要があるように思われる。 $-70^{\circ}\text{C}$ 保存よりも液体窒素内保存がさらに良いともされている。

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

目的

ヒトリンパ球に EB ウイルスを試験管内で感染させると、リンパ球特に B cell の一部が transform し、次々と増殖を重ね、その培養株を樹立することが出来る。

この株は長期間の継代培養が可能であり、また、dimethyl sulfoxide を入れて -70 に生存したまま保存することも可能である。また必要に応じて軟寒天中でクローン化することも出来るので(和田班での報告参考)、これを使用し一個のリンパ球の持つ遺伝情報を確実に捉えることも出来る。また培養液の組成などを変化させることで、疾患の病態生理の一面を知ることも可能である。